

平成30年度第3回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略 推進協議会会議録（要旨）

- 開催日時 平成31年1月24日（木） 午後3時～午後4時55分
- 開催場所 スクエア21・女性センター 第1会議室
- 出席委員 9名
都留会長、秋山副会長、小野満委員、加藤委員、金子委員、齋藤委員、徳田委員、中島委員、森委員
- 欠席委員 3名
小出委員、鈴木委員、森田委員
- 出席説明員等
矢ヶ崎政策課長、岡村政策課副主幹、桜田理事、奥主任
- 傍聴者 0名
- 議事日程
 - 1 開会
 - 2 確認事項
 - (1) 平成30年度第2回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会会議録（要旨）について
 - 3 審議事項
 - (1) 具体的な施策・重要業績評価指標（KPI）進捗状況の評価について（対象：平成29年度）
 - 4 その他

■ 会 議 録 (要旨)

○会 長 ただいまから、平成30年度第3回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会を始めます。本日の委員の出席状況を事務局から報告してください。

○事務局 (出席状況の報告)

○会 長 傍聴希望について、事務局から状況報告をお願いします。

○事務局 本日は傍聴者なしでございます。

○会 長 それでは、本日は傍聴者なしということになります。
本日の配布資料について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 本日配布した資料について説明いたします。

(配布資料の確認・説明)

【確認事項】

○会 長 「平成30年度第2回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会会議録(要旨)について」、事務局から説明をお願いします。

○事務局 まず、資料1の会議録につきましては、12月に開催しました第2回会議の内容をまとめたものになります。

委員の皆様には事前に確認の依頼をさせていただき、特段修正等のご連絡をいただいておりますので、修正はございません。

○会 長 委員から何かご意見などがあればお願いします。
この内容で了承、公開していくこととなりますが、よろしいでしょうか。

○委員一同 (了承)

○会 長 それでは、事務局は公開の手続きを進めてください。

【審議事項】

○会 長 「具体的な施策・重要業績評価指標（K P I）進捗状況の評価について（対象：平成29年度）」について、委員の皆様には、事務局から事前に送付されました資料2の評価票において、担当課が記載した内容を確認し、協議会の評価の欄にコメントを記載していただいています。

記載していただいた内容をもとに、担当委員から施策ごとに、その評価や意見についてご発言いただき、その後他の委員の皆様からご意見などをいただき、といった流れで進めていきたいと思えます。

それでは、施策名「安心して子育てができる環境の整備」から始めたいと思えます。担当委員から説明をお願いします。

○担当委員 担当課評価は「B」となっており、協議会評価は担当課評価と同じ「B」を提案したいと思えます。

K P Iは3つありまして、「①新生児訪問実施率」は目標値と比較して実績値は「88.8%」で引き続き低い値となっていますが、担当課評価の取組内容には、「府中市は里帰り出産が多い。」という記載があり、里帰り先の自治体にも訪問依頼をしているとともに、未訪問の世帯には3・4か月児健診等でフォローを実施しており、適切な対応をしていると判断しました。

「②特定教育・保育施設の数」について、目標値に達しているので「A」評価となっています。内容としても、認可保育所の増加や一時預かり所の設置など、待機児童解消に向けた取組が着実に進められています。

「③安心して出産し、子育てできると感じている市民の割合」については、「49.7%」で少し目標値を下回っていますが、目標値に近い実績値になっており、これらの取組を着実に実施しています。

協議会評価は「B」ではありますが、全体としては良好な取組が行われていると判断しました。

○会 長 協議会評価の記載内容の確認になりますが、「待機児童の解消に向けた取組みも着実に進められている。」とありますが、府中市の待機児童数は多摩地域ワースト1、全国でワースト10となっています。待機児童数はK P Iで設定していないが、「着実に進められている」と協議会評価として言い切ってしまうのは疑問です。

○担当委員 都内では待機児童問題が深刻であり、来年度の幼児教育の無償化により、さらに深刻になる可能性があると思えます。この状況下で楽観視はしていませんが、自治体独自に取り組むことで、直ぐに待機児童数に反映するかどうかと言われると言い切れない部分もあると思えます。

○会 長 自治体の中では改善が見られる自治体もあることから、自治体の努力で解消できる部分もあると思います。悩ましい部分であり、待機児童数が多摩地域ワースト1の状況で、この記載内容は厳しい部分があると思います。

○担当委員 待機児童数が減っていない現状を踏まえ、「引き続き継続して取り組んでほしい」と追記するなど、修正したいと思います。

○委 員 待機児童数はどのように推移しているのか確認したい。

○事務局 平成26年度233人、27年度352人、28年度296人、29年度383人となっております。

○会 長 待機児童数が増加した要因はわかりますか。

○委 員 加えて、新規施設の定員数は把握していますか。

○事務局 新規施設の定員数は持ち合わせておりませんので、次回までに担当課に確認します。また、待機児童数が増加した要因の一つとしましては、駅前のマンションの増加が挙げられます。

補足になりますが、認可保育所につきましては、平成26年度1園、27年度なし、28年度3園、29年度2園を新規施設として開園しております。

○会 長 住民基本台帳を調べることで分析できるかもしれない。

○担当委員 マンションの増加により、流入人口の増加が考えられますので、協議会評価としては、「取組に力を入れてほしい」と修正します。

○会 長 最近の傾向では、全国では人口や世帯数は減る傾向にありますが、府中市も同様ですか。

○事務局 府中市の人口は緩やかに増加しております。

○委 員 次回までに出生数や各施設の定員数を提示してほしい。KPIとしては目標を達成していますが、関連する指標を把握したい。

○委員 K P I ③に対する協議会評価が記載されていないようですが、いかがでしょうか。

○担当委員 「子育て家庭への相談事業のほか経済的支援など多角的な支援」と記載しましたが、K P I ③に対する評価が抜けているので修正します。

○会長 それでは、続いて施策名「地域交流・活動の促進」に移ります。担当委員から説明をお願いします。

○担当委員 「①各文化センター圏域でのコミュニティ事業参加者数」が「A」評価、「②市と大学や企業等が共同実施している事業数」が「B」評価、担当課評価は「B」となっており、協議会評価は「B」としております。

K P I ①が推移でみて安定している点や、担当課の取組内容から地域の特色を活かした各種行事を開催した点は高く評価できると考えます。しかし、事業参加者数が前年比において若干の減少となっていますので、事業参加者数の減少要因についての解明に努めてほしい。また、前回の協議会評価で要望した、文化センター圏域ごとの課題抽出とその対応策の実行については、担当課評価の中では「事例を参考に試みている」とありますので、本年度において迅速な対応を期待したいと思います。

K P I ②については、現状値から^{ていげん}逡減していた協働事業数が増加に転じた点は評価できます。参考資料の連携先をみると、「大学」は実績数及び連携内容の多様性からみて高く評価できると思います。一方、企業との連携は相対的に少ない傾向にあり、新規事業の積極的な創出による連携増加に努めてほしい。また、全体を通して、例えば、企業と企業、企業と各種団体など、多様な主体との横断的連携を積極的に図り、各主体の強みを活かすことで、これまでにないような新規性・独自性のある事業創出を期待したい。

○会長 事務局へのお願いになりますが、担当課評価について抽象的なので、具体的に書いてほしい。例えば、担当課評価に明治大学との連携に関する記述がなく、参考資料を見ると、連携しているようなので追加してほしい。

○事務局 担当課と調整し、具体的に記載するよう修正します。

○会長 それでは、続いて施策名「公共施設・インフラの計画的な管理及ぶ運営」に移ります。まずは、事務局から説明をお願いします。

○事務局 「②公園や都市緑化で緑あふれるまちとしての市民満足度」につきまして、平成27年度及び28年度の実績値が誤っておりましたので、修正させていただきます。その理由といたしましては、KPI②につきましては、毎年度実施している市民意識調査の結果により把握しております。市民意識調査は5択で選択していただく形式で、①満足、②まあ満足、③どちらともいえない、④やや不満、⑤不満となっております。修正前の数値は①と②を足した数値であり、本来は「①及び②」から「④及び⑤」を差し引いたものを実績値とするべきでした。お詫びして訂正いたします。

○会長 担当課評価の取組内容に誤った経緯を担当課評価の取組内容に記載すべきである。

○委員 これまでの担当課評価やKPI評価を修正すべきだと考えますが、いかがでしょうか。

○会長 遑って修正するのであれば、協議会評価も修正すべきだと思います。

○事務局 平成28年度までの評価につきましては既に市長に答申していること、また、修正前の数値に基づいて協議会で評価し、会議の議事録を公開していることから、遑って修正することはできないと考えております。

○委員 事務局からの説明のとおり、平成29年度評価から修正した実績値を踏まえて評価すべきだと思います。

数値が誤っていた事実を29年度評価票の担当課評価の取組内容に記載すればよいと思います。

○委員 数値が誤っていたことを把握したのはいつ頃でしょうか。

○事務局 平成30年10月に、担当課に対して29年度評価票の作成を依頼した後に、担当課から数値が誤った旨の報告がありました。

○会長 数値が誤っていたこと、誤った数値で評価したことを市ホームページ等でお詫びするべきだと思います。

○委員 平成27・28年度の数値が修正前は目標値を大きく上回っていた

が、修正により下回っています。

○委員 目標値を下回っているにもかかわらず、平成29年度のKPI評価が「A」というのは少し甘いと思います。また、数値が誤っていた事実を29年度の評価票に記載し、修正すればよいと思います。

○会長 事務局は担当課との調整をお願いします。

○事務局 公表している内容につきましては、いただいたご意見を踏まえて、適切に対応させていただきます。

○会長 それでは、担当委員から説明をお願いします。

○担当委員 KPI②については、修正後の実績値及びその実績値に基づいた評価をもとに協議会評価を作成しております。

「①公共施設の市民1人当たりの延床面積」については、数値が2.60㎡/人となり、前年度より増えておりますが、担当課評価を見ますと、一部施設の処分が決定しており、その施設を除くと2.48㎡/人のため、「A」としている旨が記載されております。協議会評価としましては、「目標に向けて着実に進んでいる。」と評価しましたが、記載内容が十分でないため、補記したほうがわかりやすいと感じ、その旨を記載しました。例えば、「2.48㎡/人となり、昨年度の実績値と同じであることから、順調に進捗していると評価した。」という内容であれば問題ないと思います。

○会長 実績値が低いほうが高評価ということではなく、KPI①の目標値は現状維持となっておりますが、事務局から補足説明をお願いします。

○事務局 目標値を現状維持とした背景といたしまして、公共施設マネジメント推進プランにおきまして、総量の抑制を掲げている一方で、公共施設につきましては、住民の福祉増進にかかる施設と位置づけておりますので、数値が高くもなく、低くもない、現状維持を目標としております。

○委員 府中グリーンプラザはいつ廃止になりましたか。

○事務局 平成30年3月31日でございます。

○委員 平成30年度に新たに設置される施設があると、翌年度以降に担当課評価の説明が苦しくなるので確認したほうがよいと思います。

○事務局 担当課に確認します。

29年度に設置された施設といたしましては、市民活動センター、府中の森芸術劇場分館、給食センター、ル・シーニュ内の市営駐車場及び駐輪場でございます。

○会長 担当課評価については、過去に定量的な評価から定性的な評価に変更した経緯があり、数値だけでは表れない取組を含めて協議会では評価することとしましたが、趣旨に照らして適切かどうかを確認する必要があります。分母は毎年度変わるため、「2.48㎡/人」という実績値が前年度と同じなのは偶然の一致だと思います。

私の認識では、府中市は過去の豊かな財政状況の下で施設を多く保有しており、将来を見据えて適正な水準に落としていかなければならないという考えがあると思います。一方で、市民サービスの維持に努めなければならず、現状維持としている部分があると認識しています。

○事務局 施設が多すぎると、市民サービスは保たれる一方で、ライフサイクルコストがかかりますので、必要な機能を残しつつ、維持管理を行っていくこととしております。

○会長 定性的な面としまして、担当課の努力や環境の変化がKPIから逸脱しているかを考えるかによって評価が変わると思います。

○担当委員 そうしますと、担当課評価の中では数値が大きく増加してしまっていると担当課は認識しているため、予見される部分を除くと、評価は「B」となります。

○会長 この施策の内容を見ると、担当課の取組内容が逸脱したようには見えません。

○委員 事務局の説明を聴くと理解できますが、誤解を招く恐れはあると思います。例えば、「適正規模を維持していると評価した。」という内容が記載されていれば問題ないと思います。

○委員 数値としては「2.60㎡/人」なので「B」評価が妥当だと思います。ただし、担当課評価の取組内容を踏まえると、次年度以降「A」評価になるとは思いますが、数値だけを見ると、「B」評価と言わざるを得ません。

○委員 私も「B」評価が妥当だと思いますが、次年度以降は減少する事実がありますので、担当課評価や協議会評価は「A」評価となるとは思います。

○委員 協議会評価は定性的な評価を行い、「A」評価となりますが、担当課評価は実績値に基づく、「B」評価が妥当だと思います。

○会長 担当課に担当課評価を変えるよう促すことは可能でしょうか。

○事務局 これまでの方法を踏まえると、KPI評価につきましては、担当課に修正を促したことはありますが、担当課につきましては、修正を促すことはしておりません。したがって、KPI評価を「B」にするよう促すことは可能ですが、それを踏まえて、担当課がどのように捉えるかは担当課が決定することになります。

○委員 担当課評価はKPI①及び②を総合して評価するので、①については「B」評価が妥当だと思いますが、②については明らかに「B」評価が妥当だと思います。

○委員 担当課評価の取組内容の①について、前半部分の必要性がないと思います。さらに、②についてはKPI②に関連する取組になっていないように感じますので、根本的な部分で修正をお願いしたい。そうでなければ、協議会評価を作成することは難しいと思います。

○会長 KPI②については明らかに「B」評価が妥当です。また、取組内容についてもKPI②を分析・説明するような内容にしてもらいたい。

KPI①についても、平成29年度ベースに評価するか、次年度以降を見据えて評価するかは担当課で検討いただきたい。

○事務局 担当課評価の②につきましてはご指摘のとおりでございますので、担当課と調整してまいります。

○会長 担当課の修正内容により、協議会評価も変わってきますので、次回

以降に評価を確定したいと思います。

○会 長 続いて施策名「起業・創業の支援」に移ります。担当委員から説明をお願いします。

○副会長 「①起業・創業に関するセミナー参加人数」については、目標値90人に対して実績値62人、「②コミュニティビジネスに関するガイダンス・個別相談の参加人数」については、目標値24人に対して実績値28人となっており、担当課評価は「A」となっていますが、協議会評価としましては「B」としています。その理由としましては、KPI①について、平成27年度が115人、28年度80人、29年度62人となっており、2年連続で減少状況であること、現在の経済や雇用情勢等を考えると苦慮されている状況が伺えることが挙げられます。また、担当課評価の内容を踏まえ、30年度に期待したいと考えました。②については、目標値を上回る実績になっているため、その取組の成果が出ていることは評価できますが、総合的に「B」評価としました。

○会 長 担当課評価と協議会評価が一致しないことはあり得ます。

1点確認になりますが、協議会評価に「現在の経済や雇用情勢等を考えると苦慮されている状況が伺える。」とありますが、経済が拡張していくと創業が減っていくという内容に見える部分もありますが、そのように考えていますか。

○副会長 現状、年々創業件数は減っており、廃業件数も増えています。景気に合わせて、起業も増えていくという位置付けで記載しました。

○会 長 政府の景気判断が間違っていなければ、景気は良くなっています。景気が良くなると、労働需要が増えて雇用者が増えます。したがって、自分が起業しなくても雇われる形で済みなすので、起業しなくてよいと考えているように見えました。

廃業が増える理由ははっきりしており、中小企業における後継者問題が原因です。一方で、起業が減ることはどのように考えたらよいと考えますか。

○副会長 そもそもセミナーの参加人数が多くなると起業が増えるわけではありません。さらに、コミュニティビジネスに関する相談をしたから起業が増えるわけではありません。そのような理由からどのように表現すべきか苦労したところです。62人の参加者のうち、何人起業したかが記載されていないので、参加人数が評価の対象になるのか疑問であり、現状で参加者は落ち込ん

でいるので、実績値を踏まえ、評価したところです。

○会 長 この内容だと、マクロの状況で判断していると読めてしまう可能性があります。考え方を変えると、セミナーの内容に魅力がないからかもしれません。

○委 員 担当委員の発言を受けて、まずは実績値が減っている事実があり、その内容を評価する必要があると思います。それに加えて、「この取組が創業につながっているのか、追跡調査をしてもらいたい」などと記載するとともに、「減っている要因を解明してもらいたい。」と記載すればよいと思います。

先ほど、会長の発言から、人によって捉え方が変わってくる内容については修正すべきと考えます。担当委員が疑問に感じている部分については、共通認識だと思います。

○委 員 K P I に対する疑問をこの場で議論しても意味がないと思います。

○会 長 平成30年度における取組について、「平成30年度より、ガイダンス（入門講座）については指定管理者等が行うことで、普段の窓口業務との連続性を持たせ、ガイダンス（入門講座）または個別相談の更なる参加促進を図る。」とありますが、どのように理解したらよいでしょうか。

○事務局 軽微な相談を市民活動センターの指定管理者が行っており、この指定管理者がガイダンスや個別相談を行っていることを意味しています。

○会 長 「通常業務もガイダンスも同じ指定管理者が行っている。」というほうがわかりやすいと思います。

○会 長 それでは、続いて施策名「市の魅力を高め、知名度を向上させる活動の推進」に移ります。担当委員から説明をお願いします。

○担当委員 「①京王線府中駅における1日の乗降人員」については着実に増えています。

「②市政情報を容易に入手できないと感じる市民の割合」については、目標値に対して実績値は高い状況です。担当課評価については、「ちはやふる」の活動や多言語化の取組をするとともに、広報紙のマチイロでの掲載開始や拠点の配布の増加が挙げられており、担当課評価は「B」となっています。協議会評

価は例年「①の実績は増加しているともいえるが、自然増の範囲とも考えられる。」と記載しており、平成29年度も同様の意見としましたが、自然増の要因を分析し、資料を作成しました。まずは、実績値を分析するため、定期外、定期に分類しました。この施策は「訪問客を増やそう」という趣旨なので、定期は仕事で乗り降りしていると仮定しました。また、調布駅や新宿駅、分倍河原駅を参考として分析したところ、KPI評価は「A」で異論はありませんが、リーマンショックの頃と比較すると、実績値はあまり変わっていません。協議会としては、曜日別や時間帯別などの分析をしたほうがよいと提案したいと思います。また、調布駅が様々な取組をしているので比較してみると面白いと思います。また、KPI②については0.4ポイント改善しているのかわかどうかで評価が変わってきますが、個人的には誤差の範囲と考えます。①及び②を総合的に勘案して協議会評価を「B」としました。

○会 長 参考資料の数値はどのように入手しましたか。

○担当委員 インターネットで公開されています。

○会 長 KPI①について、毎年度「ちはやふる」に頼っているように見えてしまうので、それでよいのか疑問はあります。

○委 員 地方創生推進交付金を活用して「ちはやふる」の事業を実施しているので、重点的に書いているのだと思います。「ちはやふる」だけでなく、観光施策として他にも事業は実施しています。

○会 長 片町文化センターのラッピングなど、映画の公開に合わせて大々的に事業を実施していたが、近年は盛り上がりがなくなりつつあると感じています。

○委 員 観光協会としては、ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピックを見据えて事業を実施していますが、国から交付金をもらっている以上、この評価票には、「ちはやふる」の取組は記載すべきと思います。

KPI①については、観光施策により乗降客数が増加しているかは明らかではないと感じています。

○会 長 因果関係は不明かもしれませんが、乗降客の増加により、にぎわいの創出につながっているのによいと思います。しかし、本日、担当委員から提

供いただいた資料を見ると、他市と比較して、府中駅の乗降人員は増えていないので、評価は悩ましい。

また、K P I ②については、広報紙は多くの場合新聞折込であるが、新聞の購読者は減っており、広報紙を見る機会は減少しているので、目標値に近づけることは容易ではないと思います。

○会 長 本日の議題はこれまでとします。本日、意見があった内容については事務局で修正し、次回以降の会議で確定したいと思います。

【その他】

○会 長 最後に「その他」として、委員の皆様から何かありますでしょうか。事務局からは何かありますか。

○事務局 事務局から2点ご連絡させていただきます。1点目は次回の会議は2月7日を予定しております。2点目は次回の議題につきまして、平成29年度の評価票の残りの7事業及び地方創生関連交付金3事業について評価をお願いしたいと考えております。

○会 長 以上をもちまして、平成30年度第3回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会を閉会いたします。委員の皆様、お疲れ様でした。